

心臓血管麻酔専門医教育プログラム

当センターでの心臓麻酔科医の役割

2017年から隣接するさいたま赤十字病院と連携し、総合周産期母子医療センターが新設された。それにより胎児診断された患児の受け入れが増加傾向にある。

ハートチームの一員として、心臓外科医、循環器科医のみならず集中治療科、新生児科および臨床工学技士とも連携を密に、診療に当たることが必要である。

先天性心疾患は、個々の疾患の特異性のほか、在胎週数、他臓器疾患合併などの要因によって病態は様々であり手術適応、術式、介入時期など治療戦略は多様を極め、各々の患者に合わせた適切な対応が重要となる。

心臓血管麻酔学会を中心に学会参加、発表を行い、指導的知識レベルを維持することが求められる。

手術、麻酔実績（2017年）

年間約170件の心臓血管手術とその他の手術（ペースメーカー、心嚢ドレナージ、横隔膜手術など）約30件。

体重2kg以上の患児に対しては、末梢静脈、動脈圧ライン確保、および超音波ガイド下中心静脈ライン確保を麻酔導入後、麻酔科医が行う。様々な年齢に対応する技術を身につける。

TEEは約150例で使用。術前診断の再確認、人工心肺中のカニューラ類の位置、心内空気遺残確認、心内修復後の完成度を含め循環作動薬に対する心機能評価などを行う。（体重2kg未満のTEE挿入不可能な患児は術野でのpericardial echoを必要に応じて使用する。）

成人先天性疾患に対しては、さいたま赤十字病院の心臓血管外科、麻酔科と連携し対応している。

以下のカンファランスを踏まえて、担当症例の検討を行う。

カンファランス

PICU モーニングカンファランス：心臓外科術後、循環器 PICU 管理の患者についての検討会。
（毎日） 参加者：心臓外科医、麻酔科医、小児循環器科医、集中治療医、放射線科医、臨床工学技士、看護師、理学療法士など

循環器、心臓外科カンファランス：予定手術患者の術式確認や外来患者の治療方針の検討など。（週一回）
参加者：心臓外科医、小児循環器科医、麻酔科医、集中治療科医

心臓外科、手術室カンファランス：手術患者のデータ、手順、人工心肺（回路サイズや充填内容、輸血量など）の確認を行う。（週一回）
参加者：心臓外科医、麻酔科医、臨床工学技士、手術室看護師

周産期カンファランス：当センター新生児科を中心に、小児循環器科、心臓血管外科、集中治療科およびさいたま赤十字病院の産科、小児科も合同で胎児診断された患児の分娩時期、方法、出生後の治療方針などの検討を行う。（月一回）

当センターで対象となる病態（専門医ガイドライン参照）

心房中隔欠損症
心室中隔欠損症
房室中隔欠損症
動脈管開存症
AP window
大動脈縮窄・離断症
総肺静脈還流異常・部分肺静脈還流異常症
ファロー四徴症、肺動脈閉鎖症
両大血管右室起始症・両大血管左室起始症
総動脈幹症
左心低形成症候群
大血管転位症
MAPCA
三尖弁閉鎖
純型肺動脈閉鎖
左冠動脈肺動脈起始
僧帽弁疾患
Ebstein

大動脈二尖弁
Eisenmenger syndrome
修正大血管転位症
フォンタン循環

心臓腫瘍
心筋症
心膜疾患
心臓ペーシング
循環補助（ECMO）

心疾患合併患者の麻酔